



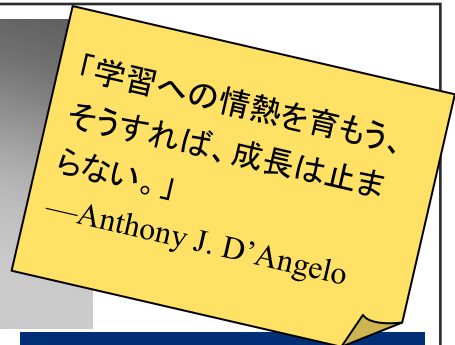
The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 19 | Issue 4 | June 2016

➡ In this issue...

- ▶02...2016年度卒業生
- ▶03...熊本復興支援の寄付活動
- ▶04...学費の値上げ
- ▶06...植物はどうやって育つの?
- ▶08...PYP エキシビション
- ▶12...職業体験プログラム
- ▶13...2016年度12年生卒業芸術展
- ▶14...The World Scholar's Cup
- ▶16...9年生の合宿
- ▶18...Basketball Champions
- ▶20...地域社会との関係構築
- ▶32...ファミリーデー2016



学校長より

今年もまた忙しくもイベント満載の一年が終わろうとしています。この時期はこれまでの達成時を振り返りつつ、来る休暇に思いを馳せ、来年度の準備を始めるのに最高のタイミングです。

今学年度は、2015年度卒業生の、KIST史上最高のDP結果の発表で幕を開けました。学校の2018年度までの達成目標、DP平均点36取得に限りなく近づけた事を、コミュニティの皆様と祝う機会が持てたことを非常に嬉しく思っています。学校を挙げた学習サポートの更なる取り組みにより、DP平均36点という達成目標を予定より早く到達し、また越えることも出来るのではと確信しています。(今年かもしれませんね???)

学習に対する取り組みの進歩、発展は皆様の強力なご支援と、学校コミュニティメンバーの協力あってのことです。今学年度も、算数・数学への取り組みのすばらしい成果が見られました。ISA及びPSATの結果から、他校に比べ、本校の生徒達の数学力が高いレベルにあり、また、数学が本校の強みとなっていることが分かります。また、生徒の英語力も同様に日々向上しています、生徒の英語力強化のために導入したプログラムが成果を挙げていることを嬉しく思います。また、特にライティング力については、昨年度の同学年と比較した7年から9年生のISA結果は飛躍的に向上し、早朝のAcademic Writingコースの効果が実証されました。また、2014-15年度にはISA試験のすべての分野で80%以上を獲得した生徒は一名だけでしたが、今年は9名の生徒がこの成績を獲得しました(内6名は6年生です)。みなさん、良く頑張りました!

KISTは幸運にもコミュニティ全体からの多大なご尽力・ご支援をいただいています。スタッフ、生徒、そして保護者の皆様のご協力により毎年すばらしいイベントは実施することが出来ています。これらイベントは年を重ねるごとに盛大なものへと成長しています。今年も、KISTival、DEAR イベント、恒例のNew Year Party、World Cultures Day や Family Day はすべての参加者(今年のDEARには「スターウォーズ」からの特別ゲスト、そしてWorld Cultures Dayには落語家の林家三平さんを幸運にもお迎えできました)にとって、楽しく、大盛況のうちに幕を閉じました。学校外での芸術活動、スポーツ、学習に関連したイベントなどのカリキュラム平行活動も多く提供され、熱心な参加がありました。また、年間を通してのコンサート、各種エキシビション、展示などによる学習も盛んに行われました。これらイベントの数々はKISTの精神と、KISTコミュニティの力を示すものです。

次のページに続く

DATES TO REMEMBER



June 2016

- 8 (G5-G11) Peer student-led conferences
- 8 (S) Secondary awards assembly
- 8 (G10) Promotion ceremony
- 8 (Nu-G11) Semester 2 reports issued
- 8 Last day of school for students (Half day for students)
- 9 (G9-G10) IGCSE mathematics examination (*Morning)
- 9-24 Office open
- 13-24 Summer program session 1
- 25-Jul 24 School closed

July 2016

- 25-Aug 5 Summer program session 2

August 2016

- 11 (K1/K2/K3) Parent welcome night
- 15 First day of school for all students
- 15 (G6-G10) Mathematics diagnostic tests
- 16 (G1-G5) Mathematics diagnostic tests
- 17 (G1-G5) Parent welcome night
- 18 (G1-G5) English diagnostic tests
- 19 (G6-G12) Parent welcome night
- 19 (G12) University information night



KIST is an IB World School

PYP | MYP | DP

前ページの続き

私たちの直近且つ最大の誇りとなる達成事は2016年度生の卒業式です。今年、DPを乗り越え、卒業する生徒は38名で、現在、7月のIB成績発表を待っているところです。KISTを代表して、卒業生のご家族の皆様にお祝い申し上げます。KISTを巣立たれたお子さんのご多幸を祈念するとともに、是非、これからもお子さんの人生の節目にご連絡いただきたいと思います。子供の教育はコミュニティ全体での取り組みです。子供を育てるにはコミュニティ全体の協力が不可欠です。コミュニティの皆様、卒業生への心遣いやご支援は大きな力になります。12年生をご支援くださったスタッフ、保護者の皆様、生徒、そしてコミュニティの皆様感謝いたします。

学校を代表し、2015-16年度のKISTをご支援くださった保護者、生徒、コミュニティメンバーの皆様感謝いたします。KISTコミュニティには素晴らしい方々がいらっしゃり、このような素晴らしい環境で働くことが出来る幸運に心より感謝しています。学校行事にコミュニティ全員を巻き込んで積極的に活動して下さっているCommunity Associationの皆様感謝を申し上げます。皆様が、学校のために費やして下さった時間、思いやり、そして価値あるご支援はKISTをより良い場所にするための原動力となっています。ほんとうにありがとうございました！そして、もちろん、学校と、生徒達を全力でサポートしてくれたKISTとKIPSのすばらし

いスタッフにも大きな感謝を申し上げます。皆さんとともに、教育を通して世界を変えていくために働けることは本当に大きな喜びです。

来年度の予定で最も大きな変化は、現在のKIPSがKISTに合流し、新たに0歳から2歳児までのKIPS保育園として森下にオープンします。保育園の開園によって、本校は都内で唯一、1歳以下の乳児にも英語教育を提供するインターナショナルプリスクールとなります。このような小さな時から未来のKIST生を育てることが出来る機会を楽しみにしています。

今号のThe Cometにもたくさんの興味深い記事が掲載されています。皆さんが今号の楽しく、情報量の多い、国際的な内容満載のThe Cometを楽しんでくださるとともに、今年度を誇らしく振り返るための参考にして頂けましたら幸いです。

皆様のご家族、ご友人と楽しい夏休みを過ごされ、8月15日にまたお会いできることを楽しみにしています！

Jeffrey Jones
Head of School

2016年度卒業生の皆さん、おめでとう！

この時期は12年生にとってほろ苦くも甘い感傷に浸るときです。4月の末の授業終了日は生徒達にとって長い学校生活の終わりを祝す日であると同時に、DP最終試験期間の始まりを告げる、生徒にとって大きなストレスとなる時でもあります。また、KISTでの学生生活が正式に終了する日が近づいていることを実感するときでもあります。



学校にとっても卒業式シーズンは様々な感情が去来する感慨深い時期です。これまで卒業する生徒達、生徒によっては幼稚園からずっと、築き上げてきた関係は私たちにとってもかけがえのないものです。毎年、学校を卒業する青年たち、彼らが成し遂げたこと、大学への合格、奨学金の受賞、を誇りに思いながら送り出します。生徒達の教育における一つの道程として生徒達の卒業を祝いながらも、彼らが教育の更なる道を歩むために世界各地に旅立つのを見送りながらも、一抹の寂しさを覚えます。しかし、この別れが一時的のもので、卒業生と連絡を保ち、折にふれ、彼らの成功や社会への貢献を共に祝えることを願っています。

2016年卒業生の皆さん...

本当に、おめでとうございます！ここでの学習を修めるために皆さんは良く努力されました。KISTで取り組んできた厳しい教育プログラムが、卒業を前にした皆さんに高いレベルでの達成感を与えることができたのなら嬉しく思います。皆さんがこのからの新たな挑戦を心から応援するとともにKISTの卒業生としての誇りを抱いていってくれることを願っています。皆さんは私たちの誇りです。これからも皆さんの成功と活躍を応援しています。また、ぜひ近いうちにKISTで皆さんに会えることを楽しみにしています！

Mr Jones



熊本復興支援の寄付活動

21日土曜日のFamily Dayは、暑すぎず丁度良い気候で絶好のSports dayでしたね！（同日このエリアでは夕方にか雨が降りました。すごい運の良さを感じました。）多くの皆さまにお越しいただき、イベントをお楽しみいただけたことをとてもうれしく思っています。当日は、DP Final Examを終えたばかりの12年生も全員が参加し、長かった2年間のDP生活からの解放感と達成感を心から喜び、全員がクラスが一丸でゲームを楽しんでいた姿は、後輩達の良きモデルとなったと思います。

インフォメーションブースに来られる方も年を追うごとに増え、学校の取り組みや次年度に向けての情報を発信していくという、Family Dayのもう一つの目的が着実に浸透してきていることが実感でき大変うれしく思います。

当日はまた、G5生徒および保護者向けのインフォメーションセッションも開催し、参加された保護者の方々からは、どんどんこのようなセッションを行ってほしいというフィードバックを多くいただきました。

今回は特別企画として、先の熊本地方地震で被害に遭われた皆様の早期復興を支援するため、CA、生徒会と協力し、募金活動と熊本県物産品

の販売ブースを運営しました。ご寄附や物産品の購入を通じて、多くの保護者の皆さま、生徒、スタッフからサポートいただきましたことに心から感謝いたします。当日熊本物産品ブースで販売のお手伝いにご参加くださいました保護者ボランティア、ならびにCA役員の皆さまには、そのサポートに対し心から感謝いたします。なお、Café Tomato様からも自社のブースの売り上げから熊本支援へご寄附いただきました。

当日の収支報告は以下の通りです。

総額**1,025,147**円を、熊本市災害義援金に寄附しました。

Family Dayでの支援に加え、熊本地震復興支援の一環として、精神面からのサポートを行ないたいという声がSRCから上がり、生徒発信の支援活動を行うことになりました。ESRCで



は被災地の小学生を元気づけるための絵やお手紙を送るという活動を行いました。Mr Millerのアレンジで、多くの素敵な心温まるメッセージやお手紙、絵等が沢山集まりました。これらを熊本市立小島小学校にお送りしたところ、小島小学校校長より早速うれしいお返事もいただきました。セカンダリースクールにおけるエモーショナル支援は現在進行中です。

今後もKISTival等、引き続き熊本地震の支援を考えていきたいと思っております。



	売上／寄附	経費	利益
学校ブース（かき氷等）	142,977	76,646	66,331
生徒ブース（フェアトレードコーヒー）	15,100	4,300	10,800
熊本物産品販売ブース	709,150	0	709,150
伊藤園販売機売上分からの寄附	3,740	0	3,740
カフェトマトより売上からの寄附	15,000	0	15,000
募金箱への寄附	220,126	0	220,126
	1,106,093	80,946	1,025,147

CIS認可最新情報

KISTのCIS認可コーディネーターとして皆様へ現在の進捗状況をお知らせいたします。皆様もご存知のとおり、KISTは2014年度末にCISに認可申請を提出し、2015年1月に候補校としての承認を得ています。現在は2年間に認可過程も終わりに近づいており、スタッフは皆、2016年11月のCIS認可訪問に向けて、証拠文書の収集、文書の取りまとめなどに熱心に取り組んでいます。

これまでに、学校は米国、マサチューセッツ州のEndicott Collegeのアンケートフォーマットを通して、保護者、生徒、スタッフ、理事会メンバーに対するオンライン調査を実施しました。私たちは調査結果の分析を行い、そのデータや他の証拠を用いてKISTがどれだけCISの基準に沿っているかの評価を行いました。その後、KISTがいかにCIS基準に沿っているのかについてのレポートを作成するとともに、基準に到達していない分野については、学校改善のための提案を行いました。

CIS (インターナショナルスクール協議会) では、「認可を受けることは、学校がレベルの高い国際教育を実践し、継続した向上への意志を示していることを証明する」と定義しています。認可のためには、私たちが「継続的な向上のための意志を示す」ことが必要です。そのためにも、これからの数ヶ月で可能な限りの提案事項実践のための努力を行う必要があります。

本過程におけるコミュニティ皆様のご支援に感謝いたします。また、CIS訪問日程が近づきましたら、詳細をお知らせいたします。

本過程におけるコミュニティ皆様のご支援に感謝いたします。また、CIS訪問日程が近づきましたら、詳細をお知らせいたします。

Oliver Sullivan
CIS Accreditation Coordinator



学費の値上げ



何に使われるのか?

今年度始めにお知らせしたとおり、2016-17年度のPYP及びMYPプログラムの学費が若干値上げされます。皆様はこの増額分がどのように使われるのかという疑問をお持ちだと思います。

日本の物価上昇率はさほど高くはありませんでしたが、それでも近年学校の運営費は、主に消費税率が5%から8%になったこと、また東京オリンピック決定による市場高騰の影響を受け、かなり上昇しています。学費値上げによる資金の一部はこのような物価高騰分に充てさせていただきます。

また、増額分の多くは、消費税増額分3%を埋めるため、教員の給与を4%アップする資金とさせていただきます。

皆さんもご存知のとおり、KISTではDP平均点36点という達成目標を掲げています。この目標達成のために、補習講座やプログラムの増加、更なるカリキュラム開発、学校方針の改訂など、様々な取り組みが行われています。上記の取り組みは目標達成のために重要なものではありませんが、KISTが継続的に発展し、意識を高め、そして目標達成するためには質の高い教育・指導こそが不可欠です。

教員の成長・発達をサポートする手段の一つに教員評価システムがあります。毎年、KISTの教員は自らがまとめた文書の入ったポートフォリオを提出し、それをもとに、6つのプロフェッショナルとしての基準に沿った評価が行われます。評価基準のひとつに教員の学習への影響をはかるものがあります。教員はデータを収集し、学習への影響と学習者・生徒の進歩をはかり、今後の授業計画に役立てます。評価は多岐に亘り綿密に行われ、教員の専門研修・成長をサポートするとともに、優秀・効果的な指導を認識し、評価することに役立てられます。優秀で効果的な指導に報いるために、学費の増額分の一部を、評価結果に基づいた、DP結果などの成果・貢献度を元にしたボーナスに充てます。

上記の変更点は大きなものではありませんが、皆様から頂戴した資金は、KISTのよりよい教育と学習環境のために使用させていただきます。皆様のご理解と継続的なご支援に感謝いたします。

エレメンタリースクールニュース...

好奇心と学習

教育界に身をおく私たちは常に「どうすれば子供たちがより良く学べるか」について考え続けています。この問題については多くの議論がなされ、諸説入り乱れている難しい問題です。KISTでは、IB初等教育プログラムに従い、生徒達が実生活に即した意義深い学習を行うためにも、構成主義的アプローチが最適であると考えます。

心理学者 Lev Vygotsky は学習を「学習者が新しい知識と既存の知識との関連性を見出したときに創りだされる意義・意味」と定義しています。多くの構成主義的アプローチは、既存の知識の上に積み上げていくというこの考えに基づいています。この学習方法は学校という枠組みを越えて発展します。生徒達は学習したことを実生活に応用するとともに、探求をさらに深めることが出来ます。

もうすぐ、夏休みがやってきます。休み中は生徒達が学年度中に学習し、経験したことをさらに固めるのに最適な機会です。子供たちと一緒に、探求した単元の中心となる考えを振り返ったり、算数の概念の復習を行ったり、など学んだことと実生活のつながりを見出したり、更なる探求を行ったりと、夏休みの旅行中や、遊びを通して行えることはたくさんあると思います。

夏休み中も、お子さんが学んだことを活かし、世界の不思議について探求し続けるように、是非皆さんも働きかけてあげてください。好奇心は探究を生み、その探究心がさらに新たな好奇心を生み出します！これは子供たちが考え、不思議に思い、探求をするという素晴らしいサイクルを生み出すでしょう！

皆さんが素晴らしい夏休みを過ごされることを祈っています！

Kevin Yoshihara
Elementary School
Principal



PYPニュース

Closing shop for the summer...

毎年のことですが、最後の単元の終わりは楽しく、冒険に溢れた夏休みが近づいていることを生徒と教師に知らせる合図となっています。でも、お休み中、校舎が閉鎖された後で、秋に再び学校が始まるまでの準備が行われていることを意識される方は少ないのではないのでしょうか。今回は、国際バカロレア (IB) の基準に沿って構築される探求単元を例にとってお話させていただきます。



IBの超教科的テーマは各学校が使用できるよう発行・提供されています。これは、生徒達が従来の教科の壁を越え、かつ妥当な教育内容を学習するためのカリキュラムを準備する際に非常に重要なものとなります。

これら超教科的テーマは、年間を通して生徒達の知的好奇心や探究心の元となる、学習の中心であり、小学部卒業までに生徒に学習して欲しい内容をバランスよく配置しなければなりません。このテーマを元に学習する内容は伝統的な学校教育における理科、算数、社会などの学習内容に類似しています。そのため、エレメンタリー教員や管理者は常にこの超教科的テーマを確認し、Central Idea(中心となる考え)を調整しながら、生徒に必要な学習内容を意義深い方法で指導できるかについて検討しています。

来年度に向けて、エレメンタリーでは上記の要素がバ

ランスよく配置され、指導されるかの全体的な見直しを行います。縦割りでの配置(KからG5まで)だけでなく、横断的(学年内での単元)なバランスも見直されます。これらの調整は子どもたちに楽しいだけでなく、かれらが将来世界で活躍するためのグローバルな価値観を含んだ国際的な教育を提供する上で非常に重要なことなのです。



Clay M. Bradley
PYP Coordinator



植物はどうやって育つの？

園庭の隅にあった古いプランターが片付けられていることに気が付かれましたか？ また、その一角に今度は素敵な花壇が現れたのにも気が付かれましたか？ K1とK2の生徒達は、花や野菜の苗を持ち寄り、自分たち専用の小さな花壇と菜園を作りました。苗を植えてから三週間。植物たちはもうかなり大きく成長しています！ 私たちの小さな庭には、色とりどりの花や、きゅうり、苦瓜、なす、いちご、トマト、唐辛、そして様々なハーブが植えられています。なすとトマトはもう実がなっています！ 今日はいちご摘みをし、3人の幸運な子供たちが味見をしましたが…一つは甘かったのですが、残り2つはまだ酸っぱかったようです！

是非私たちの庭を見にいらしてください！ 夏休みまでには野菜や果物の収穫が出来るようになるかも知れません…

Claire Yoneyama and Aya Kurosaki
K1 and K2 Teachers



K2生き物についての探求

The K2は生物や、生き物が生きていくために必要なものについて9週間の間学習してきました(Sharing the Planet: 地球の共有)。生徒達は、生き物の定義には以下の5つがあることを学びました。

1. 生き物は動く
2. 生き物は成長し、変化する
3. 生き物は呼吸する
4. 生き物は生殖・繁殖する
5. 生き物は、生きるために食物と水を必要とする

探求を通して、生徒達は動物を選択し、家で(宿題として)その動物に必要なものについての調べる前に、人として自分たちに必要なものや、欲しいものについても探求しました。生徒達は、たとえ同じ生息環境にある動物でも、必要とする食物や、住居(巣)の形態に従い、必要とするものが異なってくるということを学びました。

この探求単元の終わりに、生徒達が調べた動物についてジオラマの形で展示をしました。K2の生徒達は、ジオラマの形についての計画から実際の制作、説明文の作成までを含め、この個人プロジェクトに3週間以上をかけた。これは一大プロジェクトであり、この探求単元中生徒たちは自らの理解を示すために努力し、忍耐力、想像力、そして個性を發揮しました。完成したジオラマは、エレメンタリーのホワイエに展示され、“Sharing the Planet – K2 Animal Exhibition” が行われました。エキシビションに来場くださった先生方、生徒の皆さん、そして保護者の皆様、ありがとうございました！

Aya Kurasaki
K2 Classroom Teacher



PYPエキシビション

今年度の5年生によるExhibitionは成功体験でいっぱいものとなりました。生徒達はチームで世界や地域に影響を与えている様々な興味深い問題について調査し、発表を行いました。また、今年はこれまでで一番保護者の方の参加・サポートをいただくことが出来ました。保護者の皆様は、校外学習の手配をお手伝いくださるなど、積極的に生徒達の探求に参加していただき、このサポートによって生徒達の望むリサーチや活動を行うことが出来ました。Mr Archibald, Mr Grant, Ms Parkinson、そして学校スタッフで構成されているメンター陣はプロジェクトが円滑に進むために尽力くださいました。皆様のご協力のおかげで、2016年4月28・29日に学校体育館で行われたExhibitionは大成功を収めることができました。



中心となる
考え

私たちの組織化は環境に良い影響や悪い影響を与える。



- 動物虐待
- 動物の権利
- 自転車問題
- サイバーいじめ
- フェアトレード
- 食品廃棄
- ホームレス問題
- 日本の軍事政策・自衛権
- ポイ捨て問題
- 捕鯨問題
- 非オーガニック食品
- 乱獲
- Phone zombies (スマホ依存)
- 交通安全
- エネルギーの無駄遣い
- ゴミ問題

エレメンタリーコンサート

「フォースと共にあらんことを！」1年生から5年生までの若きジェダイとその修行者たちは6月3日に遥か船堀ホールで行われる年度末コンサートのために熱心に準備を重ねてきました。生徒達はもはや古典となったスターウォーズのテーマを歌とダンスで表現します。マスター・ヨーダの台詞にあるように、「子どもの自由な心のなんとすばらしいことでしょう！」



浜町KIPSありがとう、そしてさようなら。

ケイ・インターナショナルプリスクール (KIPS) は2014年8月に中央区浜町駅の近くに開校しました。先日発表いたしましたとおり、KIPSは(KIST近くの)森下駅側に移転し、0歳児から2歳児までを対象とした保育園に生まれ変わります。詳細は後日お知らせいたしますが、開校は2016年の8月又は9月になる予定です。本ページでは、KIPSの現在の教員が浜町での一年目の思い出を共有してくれています。

ナーサリー

KIPSにてNursery クラスを教える事が出来て光栄でした。最初は生徒が1人しかいないクラスでしたが、今ではKIPSで一番生徒が多いクラスになりました。2歳という年もあって、学年の初めはママ〜と泣いて、まだ英語も話せない生徒達ばかりでした。中にはまだ言葉を話せない子もいました。それでも、一年が終る頃には皆成長し、自分の事は自分で出来るようになり、K1に上がる準備もしっかりとできています。言葉も話せれば、オムツもいりません。年度終わりを迎え、子供達の成長を振り返ると大変驚かされます。浜町KIPSがなくなるのは寂しいですが、また新しい森下KIPSでの出会いも楽しみにしています。素敵な2年間をありがとうございました。

Tina Aya Nishihara
Nursery Class Teacher



K2

この二年間、KIPS の一員として過ごしてきた時はとても素晴らしいものでした。KIPSスタッフとして働き始めた初日から、子ども達の為に刺激的で、温かく、子ども達がチャレンジできる学習環境を作るために、みんなで力を合わせてきました。その子ども達が、友達との関係を通して社会的に成長し、情緒的に成長し、そして色々なことを学習していく姿を見られるのは、とても嬉しいものでした。子ども達の成長には本当に驚かせられました。私は子ども達はいつでも、どこでも学べると信じています。そして、子ども達を囲んでいるコミュニティーもまた、子ども達が学ぶ上では大切な役割を担っていると思います。このKIPSという素敵な学び場へ、たくさんのご家庭から色々な形でサポートをして頂き、色々な活動にも貢献していただきました。このKIPSでの二年間が私たちみんなにとって宝物のような時間になること、そして、皆さんもこれからKISTと新しいKIPSでの胸がわくわくするような体験を楽しみにしていることと思います。

Luke Callaghan
K2 Class Teacher



K1

二年前、私はまだ別の学校で教えていて、浜町に新しくできるプレスクールについては何も知りませんでした。2014年の8月、初めてKIPSのスタッフと出会い、KISTのMPRIにて二週間後から始まる学校生活に関して、みんなで何時間も話し合いました。

浜町キャンパスはご存知のように少人数精鋭チームです。オフィス、キッチン、クリーナーさんを含め、子ども達、保護者のみなさん、そして教員とで子ども達の為に、浜町キャンパスがより良い環境になるよう協力して来ました。少人数なので子ども達は学年を超えて、友達がいたり、全員のスタッフのことを知っています。また、ビフォーケア、アフターケアがあることから、朝は7:30から、そして夜は7時まで学校にいる生徒もおり、学校全体が大きな家族のような雰囲気でもあります。

KISTというおおきな母体から離れてはいるものの、K1,K2クラスは毎週Libraryへも行きました。また浜町公園や隅田川遊歩道もあり、自然の環境の中で学んだり、教室でLiteracy、Math、PYPをバランスよく学ぶことができました。

KIPS主任教諭という立場ではありましたが、熱心な保護者の皆さんから、そして才能あふれる教員の皆さんからたくさんのお話を学ばせてもらった貴重な二年間でした。

二年間、皆様のおかげで子ども達と楽しく過ごせましたこと、心より感謝いたします。

Eri Ozawa
Head Teacher /
K1 Class Teacher



エレメンタリーELS

繰り返し読むこと、そして見ること: 私たちに役立つ夏の楽しみ

私たちの多くは、夏休み中に英語を話す機会にあまり恵まれないと思います。それでも、長いお休み期間を有効に活用し、できるだけ多くの英語を聞き、また英語の本を読むことは出来ます。夏休みの間に英語の映画や、YouTube動画、歌などを聴くことは可能です。また、読書に関しても、オンラインで提供されている英語の読み物もたくさんあります(例えば、KIST 司書が推薦するこちらのサイトです: <http://en.childrenslibrary.org>) また、上野には国際子ども図書館があります(<http://www.kodomo.go.jp/english/>)。



学年度中に算数やUoiのビデオをMoodleで皆さんにご提供していますが、それと同様に、純粋に娯楽のために映画やビデオを見るときにも、「一時停止」や「巻き戻し」を上手に使うことが出来ることをお子さんに伝えてください。初めて見るビデオを巻き戻しながら見ることで新しい言葉を覚えられるのはもちろんですが、もう何度も見たことのあるお気に入り巻き戻しながら、また何度も繰り返し見ることも、良い学習の機会となります。物語の流れや、キャラクター、その他の細かいところが気にならなくなると、より良く新しい語彙や表現が頭に入ってくるものです。そのうち、台詞を暗記してすらすら言えるようになります。



また、見たり、聴いたりした言葉や主題、その他細かいところを理解できるようになるには日ごろどんなことを話題にしているかに深くかかわってきます。母国語で、普段から英語の本や映画の内容を話すことで、英語と、母国語両方での理解力や語彙が深まるのです。

語学をたくさん、楽しく学びながら、良いお休みをお過ごしください!!

Rachel Parkinson
Elementary ELS Coordinator / G5 ELS Instructor



エレメンタリー日本語科

今年も秋に「青少年読書感想文全国コンクール」、春に「サクラメダルコンテスト」に向けてG2からG5の生徒が感想文を書きました。その中から代表者を推薦し応募しました。



その結果、「第61回青少年読書感想文作文全国コンクール」では、3年A組友義君、5年A組珀君、5年A組グンヒョク君が入選しました。詳しくは下記をご覧ください。

<http://www.dokusyokansoubun.jp/books2015.html>



Tomoyoshi (左)、Gun Hyuk (中央) そして Haku (右)、エレメンタリー副校長 Mr Bradley と記念撮影。

「サクラメダルコンテスト」では、5年A組幸来さん、5年B組泰夢君が努力賞に選ばれました。詳しくは下記をごらんください。

<https://sites.google.com/site/sakurajpncontest/home/result/2015-16nian-du>



エレメンタリー校長 Mr Yoshihara と記念撮影する Sara (左) と Taimu (右)。

夏休みに読書感想文の宿題も出しますので、また来年に向かってがんばりましょう!!

Yoshiko Torikai
PYP Japanese Teacher

MYPニュース

MYP 生と、教員たちは今年も良い一年を終えることができました

KIST 生、教師、保護者の皆さんは今年一年熱心に活動してきました。6月8日の水曜日に、大成功だった今年度のIB中等教育プログラムが終わりです。

今年も、MYP生にとってプログラムのハイライトというべき出来事が数多くありました。教員たちは昨年から引き続き、各MYP教科が、概念、目的、そして評価とより良くつながった内容を提供できるよう、MYPコースの見直しと再構築を行っています。

また、11月のIB評価訪問を前に、学校は奉仕活動の強化、技能に特化した学習へのアプローチのプログラム間での周知、そして全生徒が超教科的学習探求を行えるよう取り組んでいます。

10年生はパーソナルプロジェクトを終えました。また今回初めてKISTでは電子ポートフォリオを用いたプロジェクト評価に参加します。

MYPの通常学習に加え、7年生と9年生は合宿にも参加しました。これらの合宿は、生徒達が新しい教科の学習や、概念の理解をより良く行えることを助けてきました。

最後に、生徒達は様々な学校が一堂に参加する機会を得ました。これら、美術や体育、またカリキュラム並行型活動などの体験は生徒達がバランスの取れた個人として成長するための豊かな教育に寄与しています。

Robert White
MYP Coordinator



7年生が英語・個人と社会(人文)の合同単元に取り組んでいるところ



9年生の合宿での実習・体験学習



MYPパーソナルプロジェクトで10年生にインタビューする9年生



LMCでのSpelling Beeに参加する6年生



東京都現代美術館を訪れた10年生



1学期の Wall of Honor ceremonyで6年から8年の生徒の前で話をするMs Aoe



Wall of Honorに自身の手形を加えた直後の8年生、彼らはIB学習者像における実績を認められました。



KISTのMUN Scrimmageの休み時間中、くつろいだ表情の生徒達



KISTクロスカントリーのスタートラインで



学校のIB評価訪問向けに自己評価を行っている日本語の先生たち

「KIST職業体験」プログラム立ち上げ

発想を広げ、夢を形作る

日本の大企業では、国際的な人材が広く求められていましたが、中小企業においても国際化や海外進出に伴い、より多くの国際人材を求めるようになってきました。国際化は日本にとっても近年の新しい傾向なわけではなく、企業の国際化は常に大きな課題であり続けてきました。外国人就労人口が36%のシンガポールと比べ、日本のそれは1%に過ぎません。この数字一つをとっても、今日の国際化の中で日本が大きな転換をしなければならないことは明白です。



日本語力と日本文化への深い理解を持つKISTの卒業生は日本で国際化を望む企業にとって海外人材を雇用すること比べ、非常に魅力的な人材です。KISTでは日本企業や、多国籍企業の日本支部と長期的な関係を築くことにより、企業の国際化や人材確保をサポートできるのではないかと考えています。

これに関連して、KISTでは今年から職業体験プログラムを新たに導入することを決定いたしました。

この毎年提供されるプログラムを通し、KISTの9年生は自身が興味・関心を持った、東京にある企業で行われる2日間の研修に参加します。そこで生徒達は企業やそこで行われる業務や、将来的に該当企業に貢献・就職する方法・可能性などについて学びます。それぞれが研修を行った企業で生徒達は実際の業務を体験することが出来るかもしれませんが、それ以上に、それぞれの企業がどのように社会に貢献しているか、該当企業ではどのような仕事をする事が出来るのか、将来的にそのような企業・業種で仕事がしたいのかということ学ぶことを目的としています。職業体験や企業訪問を通し、生徒達が見聞を広め、将来の夢を具体的に描き、そのことによって進路を定め、ひいてはMYP最終学年のDP教科選択に役立ててくれることを望んでいます。また、生徒を受け入れてくださった企業側も、国際化についてKIST生と意見を交わし、将来的なインターンや雇用の可能性を含めた長期的な関係を築いてくださることを望んでいます。

今年の6月は、東京近郊の15の企業様に33名の生徒を派遣することが出来ました。受け入れ企業の業種は金融、IT、製造、運輸、教育、販売など多岐に亘ります。また、今後も、来年度に向けて更なる受け入れ先の拡充に努めたいと考えていますので、皆様のご協力をお願いいたします。KISTの職業体験プログラムにご協力いただける企業様にお心当たりがおありでしたら、是非メインオフィスの事業開発マネジャー、本田行則までご連絡ください。

KISTのためにご協力、ご尽力くださった皆様に感謝いたします！◎

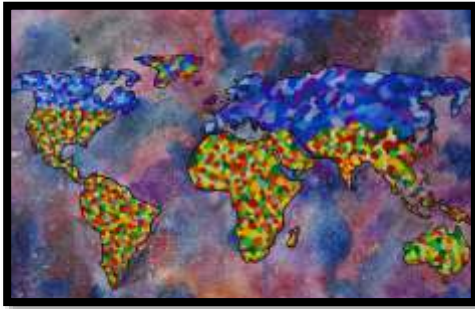


7年生KidZaniaでの郊外学習

5月12日の木曜日に7年生は全員で豊洲のKidZaniaを訪問しました。これは生徒達が現在学習中の個人と社会(人文)と、言語と文学(英語)の教科横断的学習単元活動の一環です。この校外学習の目的は成功しているテーマパークを実際に見学することでした。校外学習中に、生徒達はグループで行動し、KidZaniaがグローバルな顧客のニーズに応えるために用いているマーケティングや広報の技術を観察しました。これは教育的でありながらも、大変楽しい経験でした！生徒達はこの経験を元に、今度は自分自身が企画したテーマパークに関する提案書作成と、広告キャンペーンの計画を立てていく予定です。



12年生卒業芸術展2016



2016年の美術クラスの卒業生たちは今年度の作品展示のために努力を重ねてきました。その努力が実を結び、様々な手法や表現からなる、力強く、多様な、創造性に満ちた展示となりました。DPの美術コースには正式な最終試験はありませんが、そのかわりにこれまでの学習の集大成として作品ポートフォリオと、制作に基づいた展示会が行われます。

今年の展示会は“After the Imagination...”というタイトルで、当初のプランやイメージからどのように作品が発展して行くのかや、その制作過程での努力や困難、作品を制作する際に必要となる概念化などをテーマに行われました。試験がないからと言って、美術が「簡単」で、「学術的でない」とはいえません！生徒達は授業の中で、様々な事柄を学習し、制作の過程を文書化し、自身が選択した芸術家の作品を詳細に分析します。

今年、美術を選択した生徒は11名で、それぞれ異なる概念やテーマをもとに作品に取り組みました。今回展示されたのはその一部分に過ぎません。生徒達はその他にも、彫刻、オブジェ、ビデオインスタレーション、絵画、印刷、デジタル作品、デッサン、ワイヤーワークや、エフェメラルアートなど多岐に亘る作品に取り組みできました。私たち自身が楽しんだように、来場の皆さんにも展示をお楽しみいただけただのなら嬉しく思います！

Emma Justice

MYP/DP Visual Art Teacher

...and the Graduating Visual Art Class of 2016

右上から:

Felix
Saya
Liam
Ryu
Aashvi
Masaki
Misol
Hamish
Cindy
Hee Dae
Ayaka



The World Scholar's Cup

KIST生がWorld Scholar's Cupの東京大会に参加しました。

ゴールデンウィーク期間中、KISTの6年生から10年生は、World Scholar's Cupの東京大会に参加するため、神奈川県溝口にある洗足学園に行きました。

この大会では、関東地区の学生たちが2日間に亘って様々な教科の知識を競います。大会ではCollaborative Writing、討論、Scholar's Challenge (筆記試験)、やScholar's Bowl (クイズ形式の活動)などが行われました。

今年、KISTはジュニア部門に5名、シニア部門に11名の代表者を送り出しました。準備期間が非常に短かったにもかかわらず、生徒達は好成績を収めました。

ジュニアチームの3名 - Kishore (G6B)、Aditya (G7B)、Nimit (G8B) - は6月末に開催されるバンコクでの世界大会に参加予定です。彼らの健闘を祈ります。以下は東京大会に参加した生徒達の感想です。

Emiri (G9A)

私の初めてのWSC 経験を一言で表すとしたら、「すばらしい」でしょうか。講堂に足を踏み入れたときから帰宅するまで、すべての瞬間が驚くべき感動のときでした。この大会では個人、またはグループで、討論、ライティング、scholar's challenge や scholar's bowl に取り組みました。どのような形であれ;例えば、私の場合のグループは3名でなく、2名だったのですが、最高の結果を出せるように全力を尽くし、最終的に各自が3つのメダルを獲得しました。この大会を通して、他校の生徒と交流し、また、KISTの代表として参加した生徒達ともより親しくなることが出来ました。今回の大会のハイライトは私自身が数名の友人たちと参加した演芸と、表彰式で私たちの名前が呼ばれた瞬間でした。表彰式でKIST生の名前が呼び上げられるたびに声を限りに声援を送り、互いの勝利を称えあいました。準備に掛けられた時間が短かったことを考慮すると、今回私たちが達成した結果はすばらしいものだと思います。でも、これは私たちをサポートしてくださった先生方無しには成し遂げられなかったことです。このような素晴らしい経験を与えてくださったMr White、Ms Evelyn、Ms Jesuthasan とMs Snow のご支援に感謝を奉げたいと思います。



討論会でメモを取るNimit (G8)、Kishore (G6) と Aditya (G7)。彼らは6月にバンコクで開かれる世界大会にも参加します。



大会終了後にアルパカを手に記念撮影をするKISTの博学生徒達。

Akino (G8B)

一日目は講堂での開会式から始まりました。私はとても緊張し、不安でした。これまで一度も来たことのない場所で、初めて会う人たちと競い合うのです。私は2名の男性が壇上に上がる際に演奏していた奏者に眼をやりました。この男性たちがおかしな逸話を述べて聴衆がどっと沸いたことで少し気分が落ち着きました。

とても長い論文を書き終えた私は少し緊張を解きましたが、その後すぐに、今度は討論を行うと告げられました。しかも3つ。私の心は沈みました。もちろんクラブでも、この討論については告げられていたが、心の準備が出来ていなかったのです。私は緊張し、パートナーと必死で打ち合わせをし、準備が出来ているか確認をしました。果たして、準備は出来ていたのでしょうか? そんなわけはありません。では、私たちは楽しめたのでしょうか?もちろん、とても楽しめました。私たちは結果的に2つの討論で勝利を収めることができました。討論の間、違う学校から来たたくさんの生徒に会うことが出来て、とても楽しかったですし、討論への異なるアプローチを見ることが出来たのも興味深かったです。

大変だったのはここまでで、二日目はとてもものんびりと安心してすごすことが出来ました。早押しクイズに参加したり、WSCチームの方の話を聞いたり、演芸を見たり、そしてもちろん、一番重要なこととして、自分のところに来るアルパカを選んだりしました。模擬討論会では最高の討論技術を持つ人たちの討論を間近に見ることが出来、とてもためになりました。

最後に表彰式がありました。何百人もの人たちが壇上に呼ばれ、トロフィーと、銀メダルや金メダルを授与されました。私は、KIST生が呼ばれるために誇らしく思いながら参加していました。

World Scholar's Cup への参加は貴重な経験でした。私は自分の論文作成、討論、クイズ、そして社会性などのスキルを延ばすことができました。イベントは楽しくありながらも、教育的なものでしたので、来年はより多くのKIST生が参加することを願っています。



大会の開始に向けて準備を行う Akino (G8) と Lilya (G8)。



壇上のGabriel (G10) をShouheng (G10) が眺めているところ。



KISTのシニアチームが大会前最後のクラブで最終的な調整をしているところ。

Math Field Dayの振り返り

7年生から11年生を対象としたMath Field Dayは、4月20日の水曜日に相模原のCamp Zamaで開催されました。

Math Field Dayは日本駐留米軍基地であるCamp Zamaで開かれる毎年恒例の競技です多くのインターナショナルスクールの生徒達が個人や団体の競技に参加します。現地に着くと、まず個人の試験を受けます。試験は普段学校で受けるものとあまり変わりありません。午前の個人での試験が終わると、他校の生徒6名とチームを組みます。少し時間がかかりましたが、他の生徒達と仲良くなった後は団体での競技を楽しむことが出来ました。団体戦では、限られた時間内で、出来るだけ多くの問題を解くと言う競技に参加しました。また、特定の作業を行うための単純な機械のデザインを考えるという想像力が問われるプロジェクトにも参加しました。団体での受賞はありませんでしたが、とても楽しく良い経験となりました。

GaOn (G8B)

今日、Math Field Dayに参加しました。このような競技に参加するのは今回が初めてです。実際に会場で時間を過ごすうちに、これはただ頭が良いだけの人の集まりではなく、数学が好きな人たちが集まり、皆にとって興味深い数学の問題について話し合う場なのだと思いました。数学の問題を解いた後で、エンジンのない紙製の車を製作するという興味深い実験に参加しました。渡された材料は紙箱、ストロー、そしてテープでした。最初、車作りは難航しました。でも、チームメイトと協力し、最終的には動力無しで3メートルも走る車を作ることに成功しました。このイベントで、僕はチームメイトとのコミュニケーションの大切さと、そのスキル、そして実際に紙の車を作るなどの物理的な学習機会を得ました。来年もぜひ参加して、今度はメダルを学校に持ち帰りたいです。

Chan (G10A)



新しいスタッフ紹介

前回のThe Comet発行後に新しいメンバー **Dennis Ota** が加入しました。現在Dennisは代用教員として様々な業務を担当していますが、2016-17年度からはPYPの体育教師に就任します。学校コミュニティを代表して、着任を心からお祝いするとともに、KISTでの生活を楽しくて欲しいと願っています。



Dennis Ota
Relief Teacher
(PYP PE Teacher)

オフィスアップデート

登録情報の更新について

各ご家庭の皆様には、学校登録情報更新の重要性について、改めてお知らせいたします。登録情報は、住所、電話番号、緊急時連絡先などを含みます。また、お子さんの健康状態についても、何か変更点がありましたら、ご連絡ください。お子さんの緊急連絡カード情報の更新をさせていただきますので、新しいアレルギーや、大きな病気・怪我、手術歴などについても必ずご連絡ください。

登録情報更新の際は、**Change of Registered Details Form** (学校ウェブサイト、または以下リンクから入手可能)をご記入の上、オフィスにご提出いただくか、info@kist.ed.jp 宛てにお送りください。

<http://www.kist.ed.jp/node/5>

お支払に関しまして

お支払時の現金受け渡しトラブル回避とオフィス業務の効率化を進めるため、スクールに関する費用(ユニフォームも含む)のお支払方法を『振込のみ』とさせていただきます。

今後のお支払は、お振込でお手続きいただきますよう、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

寄附報告

KISTでは、毎年3月11日に東日本大震災でお亡くなりになられた方への鎮魂と、被災された皆様の復興を祈念して黙とうをおこなっています。また、日本の国旗の色である赤と白色をテーマにしたフリードレスデーを行い、その参加費用を宮城県の震災孤児・遺児への支援として寄附をしています。今年は69,558円を寄附することができました。

ご賛同いただきました皆様、ありがとうございました

9年生の合宿...

9年生、山中湖の合宿でMYPパーソナルプロジェクトの準備を始める

9年生の合宿は5月の第2週に行われました。合宿は生徒たちにMYP最終学年に向かう心構えを促すという目的もあり、生徒たちと引率の担任たちは美しい自然の中でクラスとしての一体感を育み、身体を使った様々な活動を行う機会に恵まれました。この合宿は10年生で完成することを求められるMYPパーソナルプロジェクトへの導入活動というカリキュラム上の側面もありました。以下は生徒たちの今回の合宿と、行われた様々な活動の感想文です。

Chae Hyun (G9A)

私達9年生は、5月の9日から10日までの一泊で山梨県へ合宿に行きました。合宿での様々な経験を通して私は新しいことを学ぶことができました。

初日に、私達は2つのグループに分けられ、サイクリング、カヌー、ハイキングなどの活動を行いました。不運なことによりお天気に恵まれず、雨が降ってきたため、予定を少し変更してハイキングは2日目に行うことになりました。初日は降り続く雨の中でサイクリングやカヌーをしなければならなかったのですが、驚くことに、それを楽しんでいる自分がいました。私は美しい自然に囲まれた中で、友人たちと考えを共有することで、人生初めてのカヌーへの恐怖を克服しました。私のカヌーの真横を泳いでいた白鳥の事も忘れられません。サイクリングでは、お互いを励まし合い、助け合い、時には雨の中でお互いを待ちながら、友人たちとの確かな絆を確認することができました。友人たちとのこうした関わり合いがあるからこそ、雨の中でも活動を楽しむことが出来たのだと思います。その夜に行ったグループ活動(雨のせいでキャンプファイヤーは中止になってしまったのです)では、もう一度皆で参加しているのだという気持ちが強まり、また友情が本当に大切に、一生私たちの心に残るかけがえのないものだという感情が湧いてきました。

2日目は来年のパーソナルプロジェクトの説明から始まりました。この説明会で、パーソナルプロジェクトのテーマの決め方や、そのテーマにどのように取り組めばいいのか、などについて多くのことを学びました。また、ちょうどパーソナルプロジェクトを終えたばかりの10年生からそれぞれ手紙をもらい、プロジェクトがどのようなものなのかを教えてくれた10年生に感謝しました。また、手紙からパーソナルプロジェクトを楽しむ秘訣である時間管理の大切さについて教えられ、これからプロジェクトに取り組むうえで大きな力になりました。説明会の後で、9年生全員で石割山という山にハイキングに行きました。このハイキングで苦労したのは周囲の自然のように、限りなく続くかと思われるほどの石段と急坂を登り続けなければならないことでしたが、全員で頂上めがけて努力を続けました。互いに「出来るよ!」「頑張って!」「もうすぐだよ!」など応援し、支え合うのを見るには心温まる光景でした。ここでも友情の力と思いやりの大切さが示されました。



石割山の神社前での9年生と引率教師の集合写真

全体的にみて、この合宿は友人たち、そしてこれまであまり関わってこなかった人達との距離を縮め、「一緒に」「互いに」という言葉の意味をより深く理解し、一緒に努力し、笑いあい、時間を共有し、意見を交換し、思いやりを持って支え合い、励まし合うための、素晴らしい機会だと思いました。私は、最初に少し心配だったことがうそのように、この一泊の合宿を楽しみました。他の9年生も、私と同じように楽しい思い出が作れたことを願っています!

Kevin (G9B)

僕にとって、今回の合宿は9年生の初めからずっと楽しみにしていた行事でした。個人的に、小さな時から夏休みなどの休暇には父が良く連れて行ってくれたので、キャンプには良く行っていました。これまでの経験から、キャンプはただ楽しいだけでなく、日常の便利な生活とは異なる環境であるがゆえに多くのことを学べる場だと思えます。

今回の合宿の初日は、残念ながら終日雨で、その中でサイクリングとカヌーを行わなければなりませんでしたが、僕も替えの服もあったし、そのせいで互いの殻を破ったり、ふざけて水たまりに入ったりできたので、雨の中の活動もさほど悪く感じませんでした。そのため、雨にもかかわらず、サイクリングやカヌーを楽しむことができました。個人的にはあまり普段できない経験だったので、カヌーが気に入りました。また、僕は最初オールの扱いが上手くなかったのですが、時間がたつにつれ上達しました。なので、今回の合宿ではカヌーの技術も学ぶことができました。

でも、今回の合宿で最悪の部分はその後で起こりました。雨のせいでキャンプファイヤーができなくなってしまったのです!僕にとってキャンプファイヤーこそ合宿のメインイベントだったので、これは大変ショックでした。それでも、屋外のキャンプファイヤーのもとで行う予定だった活動はすべて屋内で行うことができ、最終的にはとても楽しむことができました。僕たちは歌を歌ったり、ゲームをしたりしました。また、Mr Otis が弾いてくださったギターで、皆が楽しい気分になり、外でのキャンプファイヤーが中止になったことを忘れさえてくれました。



Mr Otisが9年生の合唱をリード

次のページに続く

前ページの続き

次の日の午前中はパーソナルプロジェクトの準備のための説明会でした。このおかげで僕は自分のプロジェクトについて考え始めることができました。全ての事をひっくるめて、今回の合宿はとても楽しかったです。

Igor (G9A)

5月の9日、10日に9年生は山中湖での宿泊合宿に行き、カヌーやサイクリングなど、互いに協力し合い、論理的に考え、関わり合うなど、様々なスキルを必要とする活動に参加しました。



山中湖畔のサイクリングロードで

合宿の間中、色々なことを学び、良い時を過ごす事ができました。合宿で学んだことの中には、他の人達とより効率的に作業する方法などがあります。特に、初

日の夕方に行った活動は(自分の製品を売るなど)多くの協力を必要としました。ここで、僕は各々が独自の考えや意見を持っていることに気付き、考えうる最良の結果を導き出すにはそれぞれの意見をしっかりと聞くことが大切だと気付かされました。

今回の合宿で、より多く学んだことのもう一つはパーソナルプロジェクトについてです。2日目の活動のお陰で自分がどのテーマに取り組みたいか、かなり具体的なイメージを持つことができましたし、先生方の意見を聞くことができたのも役に立ちました。全体的に、合宿はとても楽しかったです。特に主要な3つの活動は(かなり体力的に疲れましたが)楽しかったです。特に好きだったのはかなり長時間行った事と、自身がもともと好きだったこともあり、サイクリングでした。活動の間中降っていた雨に不満を漏らした人たちもいましたが、僕はそのことがあったため、かえって楽しさやワクワク感が増したと感じました。

僕にとって、合宿は色々なことを学ぶことができました、とても素晴らしい経験でした。今回の合宿に点数をつけるとしたら、10点満点中、9.5から10点、だと思います。



10年生からのパーソナルプロジェクトのアドバイスを共有

アスレチックアップデート

スタッフ対生徒のバスケット試合

4月23日に、ISTAAバスケットチームの選手たちはスタッフ数名とのKISTスタッフ対生徒の親善試合に臨みました。U18の男女チーム及び今年度のリーグ戦の覇者、U14男子チーム代表者の混成群がスタッフチームと戦いました。今年は、スタッフチームが第4クォーターで果敢な追い上げを見せたものの、59対49点で生徒チームに軍配が上がりました。チームを率いて生徒チームを勝利に導いたキャプテンのTyson (G12B) とOshin (G11A) に特別賞を送りたいと思います。



KIST Middle School Basketball Champions



2016年3月21日(土)の午前中に、2016年度ISTAA U-14のバスケットトーナメント主催校であるブリティッシュスクール(BST)に行くために、KIST Comets U-14 男子バスケットボールチームが三軒茶屋駅に集合しました。

このトーナメントは、すべてのチームがすべての相手と一回は試合を行う、総当たり戦形式で行われました。最終的に勝ち数が一番多かったチームがISTAAチャンピオンとなります。

このトーナメントに先駆けた試合のすべてに勝利していたCometsは静かな中にも自身を秘めて試合に臨んでいました。しかし、チームのより経験をつんだ選手たちは昨年、優勝チームとなった対戦校に初戦で負けてしまったの試合のことを思い出し、慎重になっていました。チームとして緒戦から集中することの重要性を良く知っていたのです。

Cometsの緒戦、TISとの試合は52-2という圧倒的な勝利で終わりました。2戦目のCISとの試合も26-13で勝利。続いて、もっとも難敵であったBSTとの2連続戦が行われました。疲れが出ていたこともあり、前半、CometsはBSTにゴールを許しましたが、後半から本領を発揮し、最終的には26-16で勝利を手にしました。

三試合を終えて、チームは最終戦前の休憩を歓迎しました。最終戦では、Cometsは緒戦と同じく、KAISを相手に49-18という素晴らしい勝利を飾りました。

4-0という無敗記録でKIST Cometsは2016年度ISTAA U-14バスケットボールの優勝者となりました！

チームを代表し、チームの応援、また、KISTでのホームゲームをサポートして下さった生徒、保護者の皆様に感謝いたします。

最後に、すべての選手たちと、最高の(不敗)シーズンを祝したいと思います！

Scott Grant
Middle School Basketball Coach

Team members:

G6B: Kaiser, Roi

G7A: Deniz, Dohyun, Koju, Preston, Jihoo

G7B: Den, Jun

G8A: Aryan, Kenzo, Kai



Court 1

	BST	KIST	TIS	KAIS	CIS	
2	BST	X	16-26	25-8	40-11	20-17
1	KIST	26-16	X	52-5	49-12	26-13
4	TIS	8-25	5-52	X	20-20	11-30
5	KAIS	11-40	12-49	20-20	X	17-29
3	CIS	17-20	13-26	30-11	29-13	X

写真提供Kevin Williams様

ISTAA クロスカントリー招待試合



恒例のISTAAクロスカントリー招待試合は天候による中止や日程変更を経て、4月8日に実施されました。

今年の試合には8校の1年生から12年生まで、合計275名の選手が参加しました。KIST生たちは、今年も多く金、銀、銅メダルを学校にもたらしてくれました。

今年も素晴らしいイベントを企画、運営して下さったMr Jay、Mr Aki、そして Mr Lee に特に感謝いたします。また、当日ボランティアをして下さいましたKISTコミュニティアソシエーションの皆様にも感謝申し上げます。皆様のご協力無しに、このイベントの成功はありませんでした！！

選手の皆さんも、おめでとうございます！！



ISTAAクロスカントリー招待試合

男子

女子

Grade 1

金:	Luca (G1A)	Uta (G1A)
銀:	Sora (G1B)	Aina (G1B)
銅:	Akihiro (G1A)	Akane (G1A)

Grade 2

金:	Roan (G2B)	Kate (G2A)
銀:	Naoki (G2A)	Sara (G2A)
銅:	Mark (G2A)	Emily (G2A)

Grade 3

金:	Killian (G3A)	
銀:	Ryo Y. (G3B)	
銅:	Sebastian (G3B)	Mano (G3B)

Grade 4

金:	Kaito (G4B)	
銀:	Lance (G4B)	Aina (G4B)
銅:		Homare (G4B)

Grade 5

銀:	Keanu (G5A)	
銅:	Soma (G5A)	Elena (G5B)

Grade 6

銀:	Ryuta (G6A)	Manaka (G6B)
銅:	Hugo (G6A)	Nanami (G6A)

Grade 7

金:		Ririka (G7A)
銀:		Alia (G7A)
銅:	Den (G7B)	

Grade 8

金:	Nimit (G8B)	Karen (G8B)
銀:	Ewan (G8B)	Emily U. (G8A)
銅:	Namiki (G8B)	Katherine (G8A)

Grade 9

金:	Keina (G9B)	
銅:	Tom (G9A)	Ayumi (G9B)

Grade 10

金:		Seina (G10B)
銀:	Moe Min (G10A)	Leia (G10A)
銅:	Shouheng (G10A)	Selena (G10B)

Grade 11

銀:	Ken (G11B)	
----	------------	--

ロゴデザインコンテスト優勝者

KISTは、Future Horizons 奨学金プログラムの新しいロゴマークを皆さんにお知らせできることを誇らしく思います。今回選ばれたのはChae Hyun (G9A) のデザインです。彼女がデザインで意識したのは以下の点です。

Chae Hyun、協力ありがとう！

“ ロゴデザインでは、4色のハウスカラー、KISTの校章、KISTのモットーを使用することでKISTの精神を表現しました。また、教育と奨学金を表現するため、卒業式に着用するキャップと本を用いました。 ”



地域社会との関係構築

その日本語力と、日本文化への強い理解から、KISTの卒業生はグローバル化を目指す企業にとって非常に魅力的な人材です。日本、及び日本を基盤とした多国籍企業との長期的な関係を築くことで、KISTは企業のグローバル化に貢献することが出来ます。私たちはこのような関係による企業のメリットだけでなく、生徒達の利益、その能力を実社会で活かし、職業についての知識を得、自身がどのように世界をより良くすることに貢献できるのか、ということについて具体的に考える機会を提供することが出来ると考えています。そのため、学校はこのような関係構築はすべての関係者にとって、win-win の状況を作り出せるのだと考えます。

地域社会とのより強固な関係構築のため、KISTでは企業・団体の代表者の方をお招きするなどして、学校についてより知って頂けるような取り組みを行っています。これまでも既に企業と連携し、以下の活動を行っています。

- 通常授業の中で、カリキュラムに関連する事柄について企業・団体の方がKISTでの講演を実施
- 通常授業や、サマーキャンププログラムでのKIST生の企業訪問受け入れ
- KIST初の試みである職業体験プログラムを実施
9年生全員が、自身の関心のある企業・団体での2日間の職業体験に参加し、その企業や業種、将来的に該当企業に就職・貢献する可能性についても学びます。今年度は33名が15社・団体での職業体験に参加します。

これまで構築してきたネットワークを来年度はさらに広げるために、KISTコミュニティメンバーの皆様にも是非ご協力をお願いいたします。皆様にご協力をお願いしたいのは以下の分野です。

- **KISTの職業体験プログラムの受け入れ先拡大**
皆様がお勤めの企業・団体でKIST生を2017年6月の2日間受け入れてくださることが可能でしたら是非ご一報ください。自身が関心を持っている業種・企業での体験を通し、生徒達はその業種についての知識を得、自身の将来について賢い選択を行うことが出来ます。
- **ワークショップ・講演会の開催**
もし、皆様のお知り合いでKIST生に有益な知識や経験を共有して下さる方がいらっしゃいましたら、ご一報ください。学校では、生徒が実社会に即した知識・経験を得ることの出来る様々なワークショップ・講演会を計画しています。国際的なコミュニティにはあらゆる年齢層の生徒に対し、知識や経験を共有して下さる方がいらっしゃると思います。既にエコノミストによる講演会と、ITプログラミングのワークショップが予定されています。皆様がお持ちの知識や経験を是非、生徒達と共有くださいませんか？



- **共同ボランティア活動**
私たちは、生徒達が、世界をより良い場所にするために自ら行動を取るようになる事を目指しています。KISTでは創設以来積極的にボランティア活動を行ってきました。これら活動には小規模なものもありましたが、同時に東日本大震災の復興支援や、セカンドハーベストの食糧支援、Habitat for Humanityが提供する海外での住宅建設など大規模な活動もあります。また、今年度はカンボジアの恵まれない子供たちを支援するTASSELプロジェクトの一環として数名の生徒と教員がカンボジアで活動を行います。
- **フューチャー ホライゾン スカラシップ プログラムへのご支援**
世界をより良い場所にするための取り組みの一貫として、KISTは国内・海外在住の高い学力と意欲を持ちながらも様々な事情から質の高い国際教育を受けることが困難な生徒のために、フューチャー ホライゾン奨学金制度を設立しました。本奨学金は企業及び個人の皆様からのご寄付を元に提供されるものです。本奨学金へのサポートを通して企業の更なるグローバル化の機会と、一人でも多くの生徒が国際教育を受けることが出来る機会を提供します。
- **KISTivalへの協賛**
KISTは学校運営に関して日本政府からの補助を受けていません。そのため、学校が手の届きやすい学費で質の高い国際教育を提供するためにも、皆様のご支援が不可欠です。本校で最も大きな資金調達イベントはKISTivalですが、このイベントに対する皆様のご支援に感謝しております。学校では本イベントでのエンターテイメントをご提供くださる協賛企業・団体・個人の方を常時募集中です。この恒例のフェスティバルを税金控除対象となる寄付、ブース提供、その他でご支援くださる方、またはご支援くださる個人・企業をご存知でしたら、オフィスまでご一報ください。

生徒の夢や視野をさらに広げるために、地域社会との関係構築にご協力いただける方がいらっしゃいましたら、是非、オフィスのDevelopment Manager、本田 行則 yukinori.honda@kist.ed.jp までご連絡ください。

クラブ活動のハイライト



クロスカントリークラブ (エレメンタリー)

現在の形になってからのエレメンタリークロスカントリークラブは今年の5月で4年目を迎えます。今、クラブはメンバーの数と、生徒の努力で達成した結果の両方で大きな成功を収めています。クラブサイクル毎に、生徒達は練習をの意を味を理解し、より長い距離を楽しみながら走ることが出来るようになっています。

クラブは学校のクロスカントリー競技に出場する生徒たちだけでなく ISTAAクロスカントリーに出場する選手にも有意義なものです。今回も、クラブで練習をつんだ生徒達は実践でも良い結果を残すことが出来ています。今回も、第2サイクルでクラブに参加する生徒の多くが競技会を目標にしていました。クラブで力を入れているのは強さと耐久性だけではありません。選手たちの経験を豊かなものにするために、正しいトレーニングやストレッチの技術の習得にも力を入れています。

クラブのメンバーは3年生から5年生で、走ることや運動することに情熱をもっています。Mr Vodden、Mr Yoshihara そして Mr Bradley で構成される監督チームは自身もランナーであり、生徒達の成長と安全に気を配りながらも、自身の限界に挑戦しています。来学年度に何か楽しく、役に立つクラブを探している皆さんは是非クロスカントリークラブに参加してください。「人生を変える」経験になること間違いありません！

Clay Bradley

Cross Country Club Co-Supervisor



演劇部 (セカンダリー)

今学期、セカンダリーの演劇部はEnd-of-Year Concertで行うオリジナルの寸劇の準備を一生懸命行ってきました。多くの生徒が秋の演劇集中講座で培ったスキルを活かし、部員(6年生から10年生)はいくつかの即興演劇を楽しむことができました。

毎週水曜日の午後に部員たちは最終公演のために練習を重ねてきました。最初の数週間は互いをよく知りあうことに加え、短い寸劇を行いました。数名の生徒はメンバーと共有するために、長めの脚本を書きました。部員の一人であるLeia (G10A)が書いた脚本のテーマを発展させたものをコンサートで演じることになりました。

脚本を準備するなかで、劇に含みたい要素を集めました。例えば、「ロミオとジュリエット」や「ウェストサイド・ストーリー」のような2つの異なる世界、と、学校生活や夏休み、コメディと芸術性、そして音楽のある物語(ミュージカル性)です。今はまだ見直しやリハーサルで忙しくしていますが、完成形をEnd-of-Year Concertで皆さんにお目にかけるのを楽しみにしています。

Steven Otis

Drama Club Supervisor



「KIST は本当に特別な場所です。すべての生徒が10-15分前に集合し、意欲に満ち、活動を始める準備が出来ている唯一の学校でした。かれらは私たちがこれまで関わった中で最も年齢の幅が広く、協調性に富み、意欲に溢れた、最もチームワークに良い生徒たちでした。」

演劇集中講座講師Celine Heldlによる2016年1月の演劇集中講座を率いた際の感想

Staff 10!

今月のStaff 10!では、2013年の8月にエレメンタリースクールのPYP美術教師として着任したHelen Campbellをご紹介します。

● 出身地について面白いことを教えてください。

私は元々はスコットランドのエディンバラの出身ですが、実際に過ごした期間は、ロンドンや英国南部のほうが長いです。さて、エディンバラについて何か興味深いことをお話ししましょう。皆さんご存知のとおり、JK Rowling はハリーポッターシリーズの第1作をこのElephant Houseカフェで書きました。

● 世界で一番好きな場所はどこですか？

おっと！私はこれまで幸運にも数カ国に住み、世界中を旅してきたので、これは難しい質問です。私は砂漠、水辺、山、森、都市部にかかわりなく、自然と、広い空間が大好きで、静かな環境でも、騒がしい都心であっても同様に落ちていて幸せに過ごせます。なので、お気に入りの場所がありすぎて、一つに絞ることは不可能です！

● チャンスが あったら 会って みたい 人は 誰 ですか？ その理由を教えてください。

エレメンタリーのときの親友の一人◎・・・か、ガンジーです！

● 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

写真を撮るのが上手だとよく言われます。

● ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

詩を書いていることでしょうか。また、俳句の技術向上に努めています。言葉(自然と旅行もですが)は私の作品に刺激を与えてくれます。あまり発表してはいませんが、私は芸術家でのあり、ロンドンやシンガポール、そしてベトナムと日本でも数回の展示会を開催しています。

● あなたにとって一番の宝物は？

家族、友人、そしてもちろん、時々怪獣にもなる二匹の猫たちです！

そして、自由、でしょうか…

● ご自分を言葉で表現すると？

信頼できる、決断力がある、落ち着いている、思いやりがある、おもしろい、親しみやすく、想像力がある。でも、本当のところは、私を良く知っている人たちに聞くのが一番だと思います◎

● もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

いいえ。これまでの人生に感謝しているので、ありません。後悔のない人生を送ろうとしています。

● 自分を高めるために今やっていることは？

個人的に:

常に学び続け、向上し続けようと考えていますー以下は向上しようと努力しているもののリストです:料理ー作るのも、食べるのも大好きです、去年始めたダウンヒル、そしてクロスカントリースキーの技術、水泳ー毎週練習していますが、フォームが改善されているは定かではありませんー(犬かき



Ms Campbellと猫科のお友達。

の様に頭を上げて泳いでいます!)が、リラックスと、トレーニングの一環として楽しんでます、ピラティス、そして天気に恵まれたときに校外でハイキングすること。また、人生に平穏とバランスを求めることです。

地域・文化に関して:

東京にいる間に出来る限りの芸術作品を見て、それを吸収することです。東京は、文化において非常に豊かな場所であり、可能な限り生演奏を聞きにいこうにもしています。もっと俳句について学ぶこと。

世界的なもの:

日本にいる間に、慈善活動や、動物愛護に貢献する方法を模索すること。

責任ある消費者になり、特にプラスチック製品の購入について考える。

● ファンに一言お願いします。

うーん、…一つだけ?

今を楽しめ!

人生は短い、小さなことにくよくよしない!

どんなことも無駄にしない!

成長し、学び、教える。自分より恵まれない人々に与えることを考える。

考え続ける…簡単に検索しない! 議論し、討論せよ!

たくさん笑うこと◎

自分の周りにあるすべてのものを愛し、感謝すること。



図書室ニュース

Sakura Medal Book Bowl

KIST生は今年も、2度目になるAll Japan Sakura Medal Book Bowlに参加しました。KISTからは11名が横浜インターナショナルスクールでの競技に出場し、東京近郊の他校生と競いました。

KISTチームは当日最高のパフォーマンスを行えるよう、熱心に準備をし、練習を重ねてきました。競技は4月に行われますが、私たちはその前年の9月から準備を始めていました。1月から新規に加入したメンバーは、他の生徒に追いつけるよう倍の努力をしてきました。皆さん、本当に良く頑張りました!

来年の参加に興味がありますか? Sakura Medal clubは4年生と5年生を対象にしています。詳細はエレメンタリー司書のMs Hynes に尋ねてください。

KISTv 2016 サクラブック・トレーラー入賞者

今年度から、図書チームはKIST Office 365のビデオサイトにKISTv Channelを開設しました。この局の目的は図書イベントの情報共有と、生徒の作品展示です。昨年3月25日のセカンダリー集会で第1回KISTv 2016 サクラブック・トレーラーコンテストの入賞者が発表され、iTunesカードの賞品が授与されました。以下の入賞者の選出にご協力くださったMr Jones、Mrs Shindo (CA 会長)、そして日本語科の先生方、ありがとうございました。

- ◇ 最優秀ビデオ・編集賞 – Amina (G10B) と Yurika (G10A)
- ◇ 最優秀脚本賞 – Emiri (G9A) と Kevin (G9B)
- ◇ 最優秀アニメーション効果賞 – Manaka (G6B) と Se Young (G6B)
- ◇ 最優秀原作解釈賞 – Miu (G10A) と Erika (G10A)
- ◇ 最優秀グラフィック・イラスト賞 – Natasha (G9B) と Hitomi (G9B)
- ◇ ミドルスクール部門最優秀賞 – Julie (G8A)
- ◇ 最も話題性のあるトレーラー – Natalie (G10B) と Nikita (G10A)
- ◇ 最優秀俳優賞 – Tomomi (G9B)
- ◇ 最優秀女優賞 – Maki (G7A)
- ◇ 最優秀監督賞 – Ellen (G10A)
- ◇ 2016年度サクラブック・トレーラー第3位 – Natasha (G9B) と Hitomi (G9B)
- ◇ 2016年度サクラブック・トレーラー第2位 – Ellen (G10A)
- ◇ 最優秀賞 – KISTv 2016 サクラブック・トレーラー第1位 – Aska (G10A) と Ibuki (G10A)



Mr Coweと記念撮影するAsuka (G10A) に Ibuki (G10A)



Mr Cowe と Tomomi (G9B)

入賞作品をご覧になりたい方はLMC Moodle Page からKISTv のロゴをクリックしてください。ビデオは KIST コミュニティ間でのみ閲覧できますので、アクセスにはKISTの公式メールアドレスとパスワードが必要です。入賞者の皆さん、おめでとうございます!



2016-2017 sneak peak

皆さんの楽しみを奪いたくないので、ここでは少しだけしかお話できないのですが、図書チームは来年に向けた楽しい計画を立てているところです。DEAR や World Cultures Dayのようなおなじみのイベントは継続されますがそこにさらに新しい要素が加わります。来年は“Mystery Book Swap” や “Blind Date with a Book” といった要素を加え、DEARをより楽しいイベントにしていきます。皆さんは「表紙で本の中身を判断してはいけない」という表現を聞いたことはありませんか? 図書チームでは皆さんが紹介文だけで本を選べるように、いくつかの表紙を隠してしまいます。もしかしてこれによってこれまでは手に取ることのないはずだった本の中からお気に入りに入りめぐり合えるかもしれませんよ?!

KIST Library Team



LMCでの奉仕活動

ブック・ブログチーム

研究によると、ミドルスクールに上がると読書好きな生徒が減ってしまうのだそうです (Gander, 2013、VanSlyke-Briggs, 2011)。これは、「読書こそ生涯学習のスキル」であり、将来にとっても有益である、と考えるKISTコミュニティに負の影響を及ぼす可能性があります。この状況を打破するためにも、私たちと同世代の生徒にとって興味深いと思われる本を批評し、LMCに推薦するための、ブック・ブロガーフォーラムを始めることを思い立ちました。

この“Book Blog”活動は図書室で「楽しむために読む」ことを促進するための機会、そして新たな「場」です。私のチームは生徒が読むにふさわしいと思われる数冊を評価しました。その後、これらの本をなぜ最終的な推奨リストに入れるべきなのかという点についても議論を交わしました。

私たちのフォーラムはLMC Moodle pageで見ただけです。お時間があれば、私たちの書評や簡単な紹介文を是非、読んでください。本を選ぶ上で私たちが心がけたのは、私たちにとってどのような教訓が得られるかや、これからあるであろう困難や壁に立ち向かう助けになるかどうかです。また最も重視したのは、学校の理念に沿った、適切な内容であるかどうかです。

幸運なことに、私たちがLMCに推薦をした本をすべて購入



するために、CA図書委員会から30,000円の補助をいただくことができました。ミドルスクールの活字離れを防ぐために、私たちの意見に耳を傾けてくださったKIST Community Associationと図書チームの皆さんに感謝します。

Nikita (G10A)

引用:

- VanSlyke-Briggs, K. (2011). What went wrong: Middle School Students and Alliteracy. In *North Caroline Middle School Journal*. Available from <http://www.ncmle.org/journal/PDF/Dec11/VanSlyke.pdf>
- Gander, L. (2013). Put an end to the middle school reading decline. *Library Media Connection*, 32(3), 20.

統一テスト結果



以下の生徒は、KISTの6年生から9年生までの全生徒が2月に受験したInternational Schools Assessment (ISA) Testの4部門すべてで80%以上の得点を獲得しました。皆さん、おめでとうございます！

よく頑張りました!!

Nanami (G6A)
Hugo (G6A)
Kishore (G6B)
Minn Thant (G6B)
Kaiser (G6B)
Michiko (G7A)
Ririka (G7A)
Natasha (G9B)



KISTの10年生全員が先日PSAT試験を受けました。試験結果が届き、いくつかのすばらしい結果が得られたことを誇らしく思います。

数学: 生徒の69%が80%以上を取得しました
リーディングとライティング: 生徒の57%が60%以上を取得しました

総合成績: 生徒の52%が80%以上を取得し、その内33%が90%以上を取得しました!

10年生の皆さん、良く頑張りました!

お子さんのためのPSATまたはSAT教材を探されているようでしたら、以下Khan Academyサイトから無料でCollege Boardのオンライン公式SAT教材をご覧ください。

<https://www.khanacademy.org/sat>

セカンダリーSRC



2015-16学年度も終わりが近づき、SRCでは今年度の業務の終了と、来年度、またそれ以降に向けた調整(来年度のSRC役員選挙など)に忙しくしています。イベント満載の一年も過ぎ、今度はこれまでにこの若く、献身的な一団が成し遂げたことを振り返ることが大切だと考えます。まず、KIST初の試みだった生徒主導の競技形式で行われた“Survival of the KISTest”で、SRCは一年の始まりに、学年の枠を超えた生徒同士のチームワークや結束力を育て、互いを良く知る機会を提供しました。その後、SRCは毎年恒例のKISTivalと、11月のWinter Concertで情報ブースを運営し、生徒達や学校コミュニティのためのイベント資金や長期的な生徒のための投資を賄うためのSRCの予算及び生徒基金のために29,580円の収益を得ました。生徒のためのイベントには、特定の年齢層に特化したダンスがふさわしいと言う生徒の声を元に組織した、今学年度最初のダンス“Diamonds in the Sky”や、ミドルスクール・ハイスクールダンスがあげられます。また、長期的な投資として購入したのがダンスパーティで使用される3台の多方向ライトがあります。この購入によって、毎回のダンス開催費用が約23,000円カットできるだけでなく、2月に開催されたWorld Cultures Day ファッションショーなどのイベントに貸し出すことも出来ました。今年の生徒基金は、各ハウスカラーのキャプテンからの要請に応じてLMCに置くボードゲーム購入や、12年生のDP美術選考の生徒の要請であるDP Exhibition時の飲食代、12年生の卒業委員会の要請である2016年卒業式の祝賀ケーキ購入、KIST TASSELチームのFamily Dayブースの運転資金、ハウスカラーキャプテンのリクエストである年度末祝賀ピザパーティの資金などにあてられました。

また、昼休みに校庭がサッカーをする生徒に占領されてしまうため、多くの生徒が使用できないことを知り、SRCは、昼休みに全ての生徒が校庭で時間を過ごせるよう、週に一日、球技禁止の日であるOpen Field Dayを行うことを提案しました。毎週水曜をOpen Field Dayにすることは全生徒の73%の承認を得たため、セカンダリー校長、Mr Coweのご協力を得て、KISTの昼休みに継続的に実施されることになりました。

アドミニチームは一年を通して様々な方法でSRCをご支援くださいました。例えば、2011年の東日本大震災の遺児の皆さんへ、Free Dress Dayの寄付をお届けすることであったり、イベントの資料提供などです。また、私たちの提案に対し、トイレの芳香剤を用意してくださいました。さらに、学校のウェブサイトにSRCビデオアーカイブを設けてくださいました。SRCとアドミニとの協働で、Future Horizons 奨学金プログラムのロゴデザインコンテストが行われ、G9A Chae Hyun のデザインが選ばれました。この新しいロゴ



は近日中に学校ウェブサイト掲載されます。さらにSRCはG10B Rachelの主導でアドミニ及びCAと協力し、熊本支援のためのプロジェクトをファミリーデーに実施しました。また、熊本の被災生徒への精神的支援の一環としてKIST生徒の文通を企画しました。

3月25日には10年生と12年生が参加し、SRC主催のKISTalk が開催されました。10年生と12年生の生徒達(10年生のAska, Kunthu, Kuni, Rachel, Jiu と、12年生のKei)が学校内外で体験した興味深く、重要な事柄を共有してくれました。今回のテーマであった「意見の共有」は創刊4年目になる校内誌KISTeensへの資金援助を行うことでも継続的に促進されています。

芸術・スポーツ委員会も(比較的若い)SRC活動でMuskan (G12A)とThayalan (G11B)主導で、数多くの芸術系のコンテストや、隔週のランチタイムコンサート、体育行事、昼休みの校庭使用など、芸術やスポーツに関するイベントを提供しています。SRCでは2016年度選挙委員会を組織し、投票権を持たない卒業生(現12年生)Pranita, Saya, Motoi, Raj, Angela が円滑な役員選挙と来年度役員への以降のために尽力します。

全体的にSRCは今年もKIST生の生活をより良くするとともに、すべての学年の生徒達がリーダーシップと協調性を発揮するための機会を提供し、学生自治・民主主義及び奉仕活動を促進すると言う、実り多い一年を送ることが出来ました。私たちがセカンダリー生やコミュニティの皆さんのお役に立てたのなら嬉しいです。そして、来年度もすばらしいチームが誕生することを楽しみにしています。もし、SRCが良いグループであったなら、それはこの学校の生徒の皆さんのおかげです。なぜなら、私たちは皆さんの提案や意見によって支えられているからです。実り多い一年を送ることが出来たことをセカンダリーの皆さんと、コミュニティの皆さんに感謝いたします。また、皆さんの意見をこれからもどんどんお寄せください。

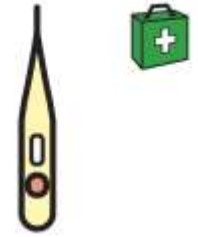
Angela (G12B)
President

保健便り

体温計の話

体温

ナースルームで生徒の体温を測る際、平熱はどれくらいか生徒に質問するのですが、ほとんどの生徒が知らないと答えます。ご存知だとは思いますが、通常「熱がある」状態とは、平熱より1度以上高いときのことをいいます。平熱を知るには、起床時、午前8～10時の間、午後2～4時の間、午後8時以降の計4回測定し、その平均が平熱と言われています。自分の平熱がわからない方は、体調が良い時にぜひ確認してみてください。



体温はどの部位で測るのが一番正確なのでしょうか？

人の体は、部位によって温度が違います。手足の末梢や顔の表面の温度は、季節や環境の影響を受けやすいため安定していません。一方、中枢と呼ばれている体の内部の温度は、脳や心臓などの大切な臓器の働きを保つために安定しています。この体の内部の温度を「中枢温」といい、これを測れば、安定した体温が得られますが体の内部なので、日常的に測ることは困難です。そこで、より体内の温度が反映され、体に負担をかけずに簡単に検温できる部位として、**腋の下、舌下、耳、直腸**などの場所が用いられています。

各体温計の利点、欠点

- 額で計るタイプは、乳幼児など、じっとしてられない子供達などに多く用いられ、数秒で計測できる利点がありますが、あくまで目安として利用されています。前述した通り、顔の表面(額)の温度は、季節や環境の影響を受けやすい部位ですので検温には適していません。
- 耳で計るタイプは、測定結果に誤差が生じることがあります。鼓膜とその周辺から放出される赤外線センサーで検出し測定しますので、外気温に影響されない耳の奥(鼓膜)の方向にできるだけ深く入れなくてはなりません。動作原理上(物理的な意味で)測定誤差が生じやすいです。
- 直腸で計るタイプは外気温に影響されず本当の体温を知るには良いのですが、衛生面や公共の場での利用も難しく実用性の高い測定部位とは言えないでしょう。実際に直腸温を測定する場面が生じるのは、新生児集中治療室、または検死で死後何時間経過しているかを調べる時くらいでしょう。
- 腋の下、舌下で計るタイプは環境温度に左右されにくく安定した結果が得られるでしょう。しかし、舌下に関しては衛生面という観点から考えた場合、他人が舌下温測定を行った体温計を自分が使用する際には、仮に消毒処置がなされていたとしてもやはり抵抗感を感じる部分があります。これは、家族間であっても同様に舌下温による体温測定を行う場合は自分専用の体温計を準備する必要があります。舌下は測定部位としては優秀ですが、体温計を共有するという点ではややデメリットも併せ持つ測定部位でしょう。
- 脇の下に関しては、衛生面などを深く気にする事無く体温計を共有できます。また、脇の下には鎖骨下動脈と繋がる腋窩動脈が脇の下の皮膚の表面近くを通っている為、より体内温度に近い体温を測定することができるでしょう。現実的に家庭でも実践が可能な範囲の中でより正確な数値の測定が可能な測定方法は脇の下がベストと言えます。

以上、体温計選びの参考にして下さい。

Makiko Whittaker
School Nurse



LEAPニュース

LEAP の第2学期が終了しました。参加者の保護者の皆様にご感謝するとともに、来年の参加をお待ちしています。

夏休み期間中もKIST生を対象とした遊びを中心としたプログラムや、学習プログラムを提供いたします。詳細はLEAPウェブサイト(<http://www.k-leap.jp/summer-programs>)をご覧ください。空席僅かですので、参加後希望の方はお早めにお申し込みください！

サマープログラムについてご質問がございましたら、ご遠慮なくご連絡ください。

Anna Holdaway
LEAP Coordinator



サマー・デイキャンプ(新 K1 - G6)

サマー・デイキャンプは生徒達が楽しみながら自身の興味・関心を伸ばすことが出来る探求型のプログラムです。夏休み中、東京にいる生徒達にとって、英語の環境で楽しみながら学習し、友達を作ることも出来る良い機会です。

K1 - G2 の生徒達は学校で様々な楽しい活動に参加します。今年はテクノロジー、水遊び、ダンスや運動、音楽、お話作り、図工、Tシャツ作りやその他たくさんの活動を提供します！

G3 - G6 の生徒達は日帰りで様々な楽しい場所を訪問します！今年、生徒達は羽田空港の格納庫、農場、工場見学の他、テレビ局のアナウンサーによるスピーチ講座などにも参加します。

詳細はウェブサイトをご覧ください！

サマー・アカデミックプログラム(全学年)

KISTでは、生徒達の習熟度をはかる為に、一年を通して定期的に診断テストを実施しています。夏休み中は、生徒達の成績が落ちてしまう傾向があることをご存知でしょうか？

KISTのサマーアカデミックプログラムは2週間の集中講座で、生徒達が苦手分野を克服し、次学年度に向けた学習準備をするのに最適です。

英語と算数 / 数学の診断テストは新学年度の第一週に実施されますので新年度に向けて、お子さんが「お休みモード」から「学習モード」に切り替える機会として、本講座の受講を強くお勧めいたします。



LEAPサマープログラムのお申し込み受付中です。

Session 1 の申し込み締め切りは6月8日、水曜日です。

Session 2 の申し込み締め切りは6月16日、月曜日です。



カレッジガイダンスニュース

Women in Japan conference at ASIJ

アメリカンスクールジャパン(ASIJ)の高校生が企画運営した "Women in Japan 2016: Realities, Challenges and Opportunities 日本の女性 現状、チャレンジ、そして未来へ" という表題のシンポジウムが3月8日(火)ASIJキャンパスで開催されました。KISTからは9年生、10年生、11年生、19人が Ms Christian、Ms Snow とMrs Okudeと共に参加しました。下記は参加した生徒のコメントからの抜粋です。このイベントとスピーカーについての詳細は<http://women-in-japan.com>をご覧ください。

女 性の平等に関する問題はさまざまな形で現れるということを学びました。それぞれのキャリア選択によって直面する問題は異なるでしょう。わたしにとって目を見張るような経験で、どんなことに注意し、どのように気をつけたいかを学びました。
Sara (G10B)

私 はジェンダーバランスについての日本の現状について学びました。治部れんげ氏も大崎麻子氏も日本は147カ国中101位だといっていました。日本のランキングがそんなに低いとは思っていませんでした。とても驚きました。
Meng Ting (G9A)

サ シンジャー氏の話は特に興味深かったです。というのも男女平等問題という女性のみに関わると思う人が多いと思うのですが、実は男性にも影響がある、国際的な問題だからです。こういった意味で、男性の視点からの話を聞くことはたいへん興味深いことでした。サシンジャー氏は平等な職場や平等な世界からたくさんの経済的利益が得られると話していました。男性も男女平等の重要性について理解することが大切だと思います。
Nina (G11A)

安 倍昭恵氏の基調講演に感動しました。生涯わたしの記憶に残ると思います。安倍夫人はひとりの女性として、また首相の妻としての彼女自身のストーリーを語りました。
Emily (G9A)

栗 原和枝氏のディスカッションをとおして私は博士号という高い学位を獲得することが生涯を通じて大いに役に立つことを知りました。また、さまざまな人々と幅広く付き合うことがのちの人生の助けになることも学びました。最後に、自分の意見などをしっかり声に出して発信しなければならないということも学びました。ものごとは自分が考えていたようには運ばないこともあるからです。
Seina (G10B)



ASIJ Women in Japan panel.

KIST Spring University Fair

学校の年中行事となった4回目の大学フェアへたくさんのご来場ありがとうございました。入学担当者や大学の先生から直接いろいろな情報を得ることができたのではないかと思います。今年は19大学から36人の代表の方がおみえになりました。他の学校も招待し、加藤学園から生徒7名、立命館宇治高校から生徒2名、ASIJから保護者8名が参加しました。また、いつものようにKIST CAが用意して下さったイベント後のレセプションで代表者の方々とはリフレッシュメントと会話を楽しんでお帰りになりました。



KIST Spring University Fair

2016年度卒業生大学合格実績

今年の卒業生もすばらしい大学合格実績を更新しました。38人の卒業生のうち33人が在学中に大学に出願し、現時点で68大学から合計103の合格をいただきました。まだ、結果を待っている生徒や、卒業後にアジア太平洋地域や南アメリカの大学に出願する生徒もいます。おめでとうございます。皆様のご活躍をお祈りしています。

Mrs Keiko Okude

Career and University Guidance Counselor
Office hours: Mon, Tue, Thu, Fri 10:00-17:00
keiko.okude@kist.ed.jp

卒業生大学合格実績

KIST 2016年度

*奨学金付き合格（合格生徒数）
2016年5月27日時点のもの

イギリス

Brunel University London
City University London
Imperial College
King's College London (2)
London School of Economics and Political Science
Queen Mary, University of London
Royal Holloway, University of London
Royal Veterinary College, University of London
St. Georges, University of London (2)
University of Bath (3)
University of Birmingham
University of Bristol (2)
University College London (3)
University of Edinburgh (3)
University of Essex
University of Exeter (2)
University of Kent (2)
University of Lancaster
University of Leeds
University of Nottingham
University of Reading (2)
University of Strathclyde (2)
University of St. Andrews (3)
University of Warwick (3)
University of West London
University of York

アメリカ合衆国

Bard College
Bentley University
California State University East Bay
Fordham University*
Georgia State University
Hofstra University
Indiana University
Maryland Institute College of Art
Millsaps University
New York University
Northeastern University
Ohio State University
Pace University (2)
Parsons School of Design
Philadelphia University
Rutgers University
Sacramento State University
San Diego State University (2)
SCAD Savannah
School of Visual Art
SUNY Buffalo
SUNY New Paltz

SUNY Stony Brook University (2)
Syracuse University
UC Riverside
UC Santa Cruz
University of Alabama*
University of Oregon*
University of Illinois (3)
University of Minnesota
University of Nebraska*
University of San Francisco
Virginia Commonwealth University

カナダ

Algonquin College
Sheridan College

日本

International Christian University (ICU) (4)
Keio University PEARL (3)
Nagoya University (2)
Tokyo International University
Waseda University SILS
Waseda University Social Science
Waseda University Political Science (2)

香港

Hong Kong University of Science and Technology* (2)

アラブ首長国連邦

New York University Abu Dhabi*



卒業生の声

Keerti Palanisamy はKISTの“Class of 2015 年卒業生”です。彼女は USA、MinneapolisのUniversity of Minnesota Twin Citiesで工学部の1年目を終了したところ です。

去年の今頃、私はDP試験と、それに続く人生で最もストレスのかかる時期を乗り越えたところでした。大学での新しいスタートは数カ月後に迫っており、私は本当に緊張していました。今、私は両親の同意無しに航空券の予約も、契約書も交わすことが出来る、自信に満ちた、自律した人間になっています。

私の大学での第一歩はWelcome Weekで始まりました。アメリカの殆どの大学は授業開始前の1週間に、新入生をキャンパスに馴染ませるための期間を設けています。この1週間で、私たちは校歌を覚えたり、多くの人と交流したり、また、IBで学んできたことと繋がるような様々な振り返り活動を行ったので、卒業後3ヶ月も経たないうちに早くもIBの学習者像について考えることになりました。Welcome Weekのハイライトは大学がSea World Aquarium と Nickelodeon Universe amusement park を一晩貸切にしたことです（新入生全員が無料で入場できた homecoming football game も、なかなか良かったです）。

それからの大学生活はとても素晴らしいものでした。学習面ではDPでの日々が工学部での厳しい授業に耐え

るだけの力を付けてくれました。また、大学の規模が大きいため、あらゆる種類の授業が提供されていました。私が履修した児童やtalking animals、陶芸の授業は難易度の高い技術の授業からの良い息抜きになりました。社交面についていうと、キャンパスでは常にあらゆることが提供されていました。例えば、クラブに参加したり、試合を見に行ったり、また春休みに私が参加したようにフロリダでの社会奉仕活動を目的とした旅行に行くこともできます。私は社交クラブに参加し、役員戦に出馬することで自身の壁を打ち破り、自分の居場所を見つけました。私はこれまで自分が学部生の代表委員会で委員を務め、来年度の工学部学生会で書記を務めるようになるとは想像もしていませんでした。

「Keerti、とっても寒かったでしょう」という質問を多くの人から受けました。嘘をではなく、確かに寒かったのですが、東京都は違った寒さで、あまり寒いと言う意識が起らないのです。それに加えてミネソタでは寒さに対する備えが万全なこともあり、マイナス10度以降はもうどれだけ寒くても違いを感じません。



後列左から2番目がKeerti。

最初は新しい生活に馴染むのに多少の困難はありました。でも、新しい友達を作ったり、挑戦したり、どんどん積極的に色々なことに立ち向かった事が役に立ちました。現時点での私から言えるのは、大学生活の基礎となるので、寮の人たちと親しくなることです。私の新しい家族や、来年度参加する様々な活動のことを考えると、大学に戻るのが待ち遠しいです。校内にミシシッピ川が流れている大学に通える生徒が何人いるでしょう。これも自慢の一つです！ Go Gophers!

Keerti Palanisamy
KIST “Class of 2015” 卒業生



理事長よりご挨拶

DPの本試験、進学式や卒業式、そしてエレメンタリースクールとセカンダリースクールのエンドオブコンサートを終え、いよいよ今年度も終了となります。

すでに皆様には学校長のMr Jonesよりお知らせし、ファミリーデーでもご紹介させて頂きましたが、今年度、理事会では以下の通りミッションの見直しを行いました。

KIST Mission Statement (revised for 2016-17)

ケイ・インターナショナルスクール東京は、文化的社会的に多様な背景をもった背景をもった学習意欲のある子どもたちに、安全で人をはぐくむ環境の中で、質の高い教育を提供し、国際社会に貢献する、人格的に秀でた有能な若者を育成することである。

以前のKISTミッションステートメントでは「高い意欲を持った子どもたち」でしたが、KISTが生徒に求めるものを明確にするために、「高い」という文言を「学習」に置き換えました。同時に、KISTのビジョンステートメントもミッションの変更に合わせて修正を行いました。

KIST Vision Statement (revised for 2016-17)

ケイ・インターナショナルスクール東京はすべての学習者が学問において優秀さを示し、他を思いやる気持ちを持ち、平和でより良い世界を作ることに貢献することを求めます。

学校のミッション及びビジョンはKISTの基本的な考え方を表わし、学校として下す決定の基盤となるものです。ビジョンに「すべての学習者が学問において優秀さを示し」と入れ、さらに明確な指針を示しました。

2011年4月、私が学校長となり開校の意を貫くためにKISTの教育改革に着手、そして2014年8月Mr Jonesに学校長を引き継ぎ、他のアドミニメンバーと共に強いリーダーシップを発揮し更に改革を進めて頂くことができました。

その結果、この5年間の間に、生徒たちは目覚ましい向上を見せてくれました。それらは、内部のアセスメントの結果のみならず、KIST生が受けている外部テストのISA(インターナショナルスクールアセスメント)、PSAT(アメリカの英語と数学の学力テスト)、IGCSE(インターナショナルGCSE、GCSEはイギリスの学力テスト)DPiにおいて、KIST生が世界標準をはるかに超えた素晴らしい成績を取めていることから証明されています。

これらの結果をもとに、私たち理事会メンバーはミッションとビジョンの改訂に取り組みました。

先日学校の満足度を測るアンケートを実施致しましたが、高いアカデミックレベルにこだわる学校の方向性には殆どの保護者の方が満足しているとの結果となりました。これらの高い目標を達成するには、保護者の期待が一致していることが重要となります。

今後も達成に向けスクールコミュニティの皆様と共に更に尽力してまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

Yoshishige Komaki
Board President



ファミリーデー 2016

5月21日(土曜日)

